

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育実習 Teaching Practice		2年	通年	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
4単位	実験実習	選択	(教職課程必修(幼稚園教諭二種))	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育実習指導 I				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教育実習事前事後指導				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
(主) 秋山真奈美、高橋登美子、大塚登、久保田隆範	授業中に指示します	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
1年次に観察実習を行い、2年次において参加、実習(部分・責任)の段階へと進み、全体的な教育実習を行う。その実地教育過程を通して、自立的な幼稚園教諭として必要な教職に関する知識・技術を習得し、併せて教師の仕事の楽しさと難しさを体験的に把握し、職務への使命感や自己の適性を確認する。				
授業の目標				
<p>実際の教育の場に臨み、</p> <p>①教師や園児との関わりを通して、幼稚園の一日の流れ、園児の発達過程や発達課題、教師の教育指導、教育環境の構成や組織体制等についての全体的な認識を深めることができるようにする。</p> <p>②担任教師の教育指導をよく観察・記録し、補助的な立場から園児の教育に参加することができるようにする。</p>				
授業の方法				
教師の職務、保育内容の指導、学級経営、幼児の発達と学び等々、幼稚園教育全般について考察し、課題意識を持って観察5日間、総合15日間の実習を行う。				
学習の成果(学習成果)				
<p>(1) 就職する以前に自立的な教師として自己の職務を遂行し得る最低限の教育実践に関する知識、技能、態度を修得し、教育実践に活用、応用することができる。</p> <p>(2) 大学で学んだ知識・技能を幼児とのかかわりのもとで検証し、新たな関心や課題を見出すことができる。</p> <p>(3) 最新の幼児教育に関する研究成果を踏まえ、保育の内容及びそれを具体化する最適な方法を創意工夫し、幼児の健全な発達を促す教育を考えることができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
1年次11月〔観察実習5日間〕				
◇幼児との関わりを通して幼稚園教育や幼児に対する興味・関心を深め、教育者としての愛情や使命感を育てる。				
◇年少・年中・年長の子どもたちの生活や発達の違いに気づいたり、クラス配属を通して、1日の生活の流れや、教師の子どもとの関わり方、教育の在り方について、観察・参加・記録を通じ学んでいく。				
2年次6月〔総合実習15日間〕				
◇幼児や幼稚園の実態についての理解を深めていくと同時に、具体的な経験を通して幼児指導(教育)の方法や、保育者の在り方を学習し、保育者の職務についての理解を深めて、自己の保育者としての適性や課題について考える。				
◇観察・参加・部分・責任という実習の各段階を順次経験し、子どもとの生活を通して、子どもの実態や発達課題、あるいは教育者のさまざまな役割について具体的に学ぶ。また教育者の子どもへの関わりやその意図を注意深く観察し、事実を即して記録を行う。				
◇教育者の指導の下、指導案を作成し、実践を通じて、今後の自己の課題を見出す。				
◇教育実習園の学級経営方針や特色ある教育活動に触れ、これらを実施するための組織体制について理解する。				

この科目だけで実習が完成される訳ではない。更なる自己課題を持ち、教育実習事前事後指導などの授業を通して、学びを深めていく。

事前・事後学習 教育実習事前事後指導をはじめとするあらゆる授業で学んだことを活かし、実習に備えること。実習後は深く内省を行い、事後学習とすること。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	90%	実習機関における基準により評価された5段階評価に基づく。2、1の評価は不可に値する。(5:優れている、4:やや優れている、3:普通、2:やや努力を要する、1:努力を要する。)
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容(態度含む)		
その他	10%	実習日誌の内容から、実習前・実習中に授かった指導が反映されているかどうかを確認する。また、提出日が厳守されているかどうかを評価の対象とする。

教科書と参考図書

大塚登・秋山真奈美・久保田隆範・高橋登美子「教育実習の手引き」佐野日本大学短期大学
「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育指導要領」文部科学省

履修上の留意点・ルール

教育実習事前事後指導を必ず受講し、明確な目的意識、課題を持って臨むこと。習熟度によっては実習に臨めない場合もある。